

経営比較分析表（令和6年度決算）

和歌山県 有田市

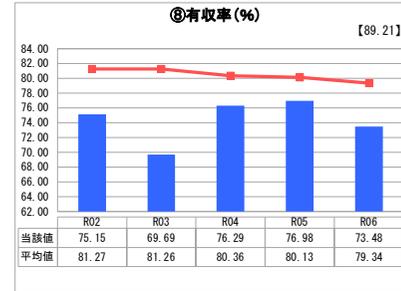
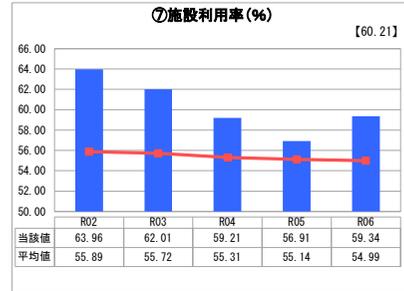
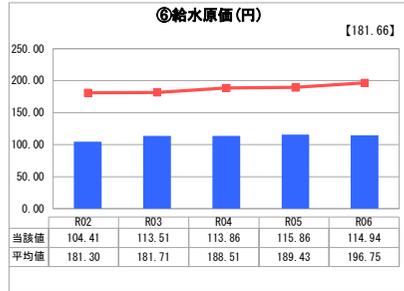
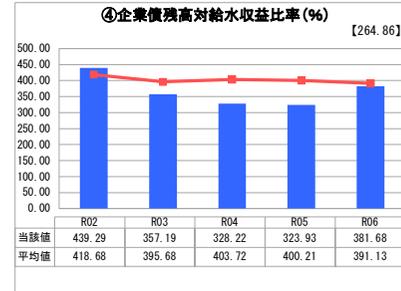
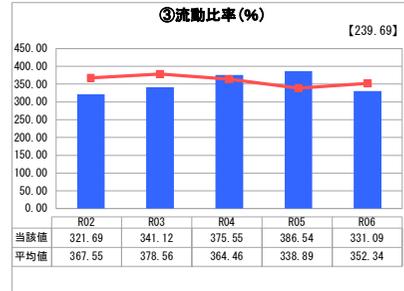
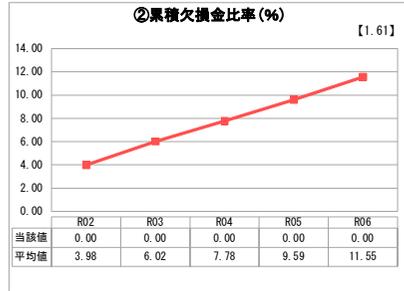
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	71.97	99.70	2,552	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
25,230	36.83	685.04
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
24,955	19.27	1,295.02

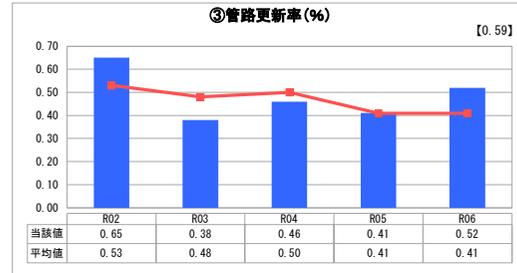
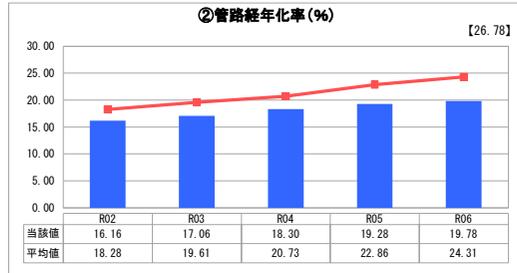
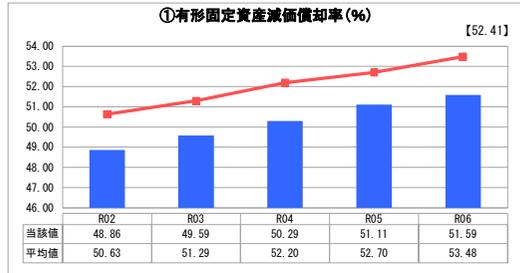
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経常収支比率】類似団体の平均を上回っており、100%以上を維持しているため、給水収益で維持管理費用などの経常費用が賄えているが、今後は人口減少による給水収益の減少、修繕費等の経費の増加により、経常収支比率は低下していくと思われる。

【流動比率】100%を超えており、支払い能力を維持している。

【企業債残高対給水収益比率】企業債更新事業を行っているため、企業債を継続して償還している。本年度も類似団体の平均値よりも低いが、ほぼ同等の数値となっている。

【料金回収率】前年と比べて大きく減少し、類似団体の平均を下回ったが、これは令和2年度と同様に水道料金の減免によるもので、本年度のみの結果と思われる。平成29年度の料金改定以降も、給水にかかる費用を給水収益で賄うことができているため、類似団体の平均を上回っている。

【給水原価】類似団体の平均よりも低い水準を維持している。今後も業務委託を継続するなど経費節減を図り、この水準を維持できるように努めていく。

【施設利用率】類似団体の平均値よりも高く、50%後半を維持しているが、今後、使用量の減少に伴い減少傾向が見込まれるため、施設の使用時には適正規模とする検討が必要となる。

【有収率】前年度よりも低下しており、類似団体の平均値を大きく下回っている。配水管からの漏水等が原因と考えられるため、今後漏水調査や管路更新により漏水の抑制に努め、有収率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

【有形固定資産減価償却率】類似団体の平均より低いが、年々上昇し、老朽化が進行している。今後、老朽化する河南浄水場の施設整備が必要となってくるため、効率的な投資計画を立案して事業を実施していく必要がある。

【管路経年率】計画的な管路更新を行っているが、令和元年度から類似団体の平均値を下回っている。法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、昭和50年代に拡張した管路が更新期を迎えるため、今後も一定の経年率が見込まれる。

【管路更新率】基幹管路の耐震化工事を継続して実施しており、前年度は更新率が類似団体の平均値と同等であったが、本年度は平均値を上回っている。

全体総括

本市の状況は人口減少により有収水量は減少傾向にあるものの、検針業務や料金徴収業務等を民間委託し、人員削減や事務の効率化に取り組み、それらの効果により水道事業経営を維持してきた。交付金や企業債を利用しながら基幹管路更新事業に着手できているが、年々経費が増大しつつある状況である。

今後、世代間の負担の公平性の観点から、健全性を損なわない範囲での企業債の活用を図り、料金や企業債以外の財源確保にも取り組み、基幹管路の更新、耐震化を策定し実施しながら、施設の更新にも着手できるように努めていく。